

学習・生活習慣の定着をめざした 学校・家庭・地域の連携

— 「ノーテレビ・ノーゲームデー」の呼びかけや「すなおカード」等の取組を通して—

プロフィール

地域

佐賀県のほぼ中央に位置する人口約22,000人の市である。儒学の祖、孔子を祀った創建300年を迎えた多久聖廟があり、文教の里・孔子の里とも呼ばれ、特に教育行政に力を入れている。

学校

創立107年の伝統ある学校である。児童数は、251名。県・市の委嘱を受け、「学力向上—確かな学力をつなぐ9年間—」の研究を進めている。小中連携教育を地域をあげて推進している。

PTA

会員数177名。5つの専門部（教養部・財政部・地域活動部・父親部・母親部）が、年間計画に基づき、学校行事との関連・東多久町育友会との連携を生かして、様々な活動に取り組んでいる。

1 はじめに

多久市内の全小中学校は、多久市教育委員会からの委嘱を受け、「学力向上」の研究に取り組み、市内三つの中学校区が年度回しで研究発表会を開催している。その日は、保護者や地域の方も研究発表会に協力したり授業を参観したりして、子どもたちの成長を確認するとともに、学校教育への連携を強めている。

東部小学校では、従来から「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を推進するとともに、子どもたちの確かな学習・生活習慣の定着に向けた活動に力を入れてきた。育友会単独の実践、学校との連携を生かした実践、中学校区の連携を生かした実践、地域全体で学校を支え、応援する実践を積み上げてきた。

2 活動内容

①ノーテレビ・ノーゲームデーの実施

【育友会単独の実践】

「十一月一日はノーテレビデー」という県内PTAの取組を受けて、更に家庭内での親子の会話の充実・親子活動への挑戦をめざすために、毎月定例の「ノーテレビ・ノーゲームデー」を設定し、全家庭での取組を推進した。また、取組についてのアンケートを取って、取組状況や保護者の声を便りにして配付することを通して、各家庭での取組内容や工夫点、成果等について紹介を続けている。

平成二十年十一月の実施についての保護者の感想
 ○我が家では、一週間に一度実施している。
 ○子どもとゆっくりと話す時間ができて、とても良い取組である。
 ○テレビやゲームの時間をなかなか設定できない家庭では、この取組が良いきっかけとなっている。
 ○親子の会話の中で、我が子のよさや頑張りが新たに発見できた。
 ○昔遊びに親子で挑戦し、楽しい時間となった。
 ○親子で一緒に夕食づくりを行い、いつもより時間をかけて食事をした。
 ○毎回、家族で何をするかについて計画を立ててから取り組んでいる。
 ○家族全員で取り組み、いろいろな話ができとても良かった。等

②「すなおカード」による学習・生活チェックの取組

【学校との連携を生かした実践】

「すなおカード」の「すなお」は、東部小学校の学校目標である。

◇すゝ進んで自ら学び伸びる子

◇なゝ仲良く心豊かな明るい子

◇おゝ大らかで丈夫なたくましい子

子どもたちの心身共に健やかな成長を願ってカードの名前としている。この取組は、学校と連携し、家庭での我が子の活動の様子について評価・記入したカードを学校に提出し、担任の先生からも評価・チェックをいただいでい

(知)
(徳)
(体)



東部の子「すなお」像

◇すゝ学習
 ◇よくできる
 ◇なゝ心
 ◇できる
 ◇おゝ生活
 △がんばろう
 について、
 の三段階
 で記入し、親子での振り返りを行うようにしている。月の中で一週間連続して実施したり、重点実施日を設定したりして、取組の効果が上がるように工夫している。具体的な評価項目は、次のとおりである。

る。その意味で、
 家庭と学校が共に
 力を合わせ、連携
 しながら子どもた
 ちの学習・生活習
 慣の定着をめざす
 ものとなっている
 る。

生活	心	学習
○早寝・早起き・朝ご飯 ○元気にあいきつ ○テレビもゲームも一時間 ○自分で整理整とん	○振り返りは「はい」 ○やさしい言葉遣い ○進んで手伝い	○時間を決めて ○毎日進んで ○十五分×学年 ○学用品の準備は前日に ○ありがとう ごめんなさいが素直に言える

③中学校区（東部中学校・東部小学校・納所小学校）共通
 の家庭学習の充実をめざした実践
 【中学校区の連携を生かした実践】



【実践】ステッカー



【実践】横断幕

子どもたち一人一人に家庭において机に向かってしっかりと学習する習慣を身に付けさせること

とは、とても重要な家庭における躰であるにとらえた。そこで、東部中学校区の三つの学校の育友会が連携して東多久町の子どもたちの確かな家庭での学習習慣を定着させるために、「家庭学習は宝物」を合い言葉に、「十五分×学年」を家庭学習の時間の頑張り目標として設定することにした。目標達成に向け、カード（上の写真）を全家庭に配付するとともに、校区内に横断幕（下の写真）をも掲げ、小中の育友会が連携して子どもたちの学習習慣の確かな定着をめざしている。実施状況はアンケートを取って、分析・公表したりもしている。

④あいさつ運動の推進

【地域全体で学校を支え、応援する実践】

毎月一・十・二十日は、育友会・小中学校・地域が連携



して、集団登校時のあいさつ運動、及び交通安全指導を行っている。小学生・中学生共に中学校正門で、それぞれの学校の教職員や保護者と一緒に運動を推進している。子どもたちにとっては、互いのかかわりを深めることにつながっているようである。また、保護者には子どもたちのあいさつや登校の様子を確認する場にもなっている。元氣よくあいさつができている子と、うつむき加減で無言のままに通り過ぎる子がいる。育友会評議員会・地区住民が集う場などで、子どもたちのあいさつと登校の実態について紹介している。

元氣いっぱいのおいさつができる子を地域全体で育ていくために、保護者も笑顔で元氣にあいさつをしながら子どもたちを温かく見守っている。

3 活動の工夫（学校情報の共有化）

東部小学校「育友会」は、名前のとおり、学校に在籍していない校区内の家庭からも賛助金をいただき、地域をあげて学校への協力体制を作りあげている。まさに、地域が支える学校である。

そのために、学校からの様々な情報提供をいただき、学校の教育理念や実践内容の共有化を図っている。育友会の

子どもたちの確かな学習・生活習慣を定着させるため

4 今後の取組の充実をめざして

によって、子どもたち一人一人に学習・生活習慣が以前に比べて確かに定着しつつあることを実感している。

全保護者アンケート結果（四点満点）

平成二十年七月実施

- 学習習慣の定着 平均三・一点
- 生活習慣の定着 平均三・四点



小中連携あいさつ運動

事務局を努めていたただいている教頭先生から定期に・緊急時に、迅速なe学校ネット携帯配信システム（先生・保護者・地域関係者の登録）によって情報を得て、共有化し、学校への協力体制づくりを確保している。

「家庭でできることは、家庭で指導する。」を掲げ、日々の地道な取組を続けてきたこと

に、家庭の果たす役割は大きい。学校との連携を生かした地道な育友会活動の積み上げによって、確かな手応えを感じている。しかし、まだまだ成果が現れ始めたところである。取組が一部の保護者に限られていたり、なかなか協力できていない家庭もある。今後は尚一層、育友会が一致団結して、我が子の成長・東多久町の子どもの成長へと導いていくために、共通理解と役割分担を生かした取組を展開していきたい。学習・生活習慣の確かな定着のため、保護者として、東多久町の一員として、努力していきたい。

展望

育友会では毎月「ノーテレビ・ノーゲームデー」を設定するとともに、学校との連携で「すなおカード」（家庭での学習・生活状況を三段階で評価・記入したカード）を運営している。他の学校の育友会との連携で、家庭学習にかかわるカードを全家庭に配布するなどし、総合的に子どもの学習習慣の定着を促進している。さらにあいさつ運動の推進、e学校ネット携帯配信システムによる学校情報の地域全体への提供にもかわり、学校活動の協力体制の充実に努力してきている。